

# 指定された分布に従う疑似乱数



# 一様乱数から非一様乱数へ

---

- 疑似一様乱数は生成できた
- シミュレーションでは、指定された分布に従う乱数が必要になる
  - 変換法
  - 棄却法

# 変換法

---

- 確率密度  $f(x)$  に従う乱数を生成する

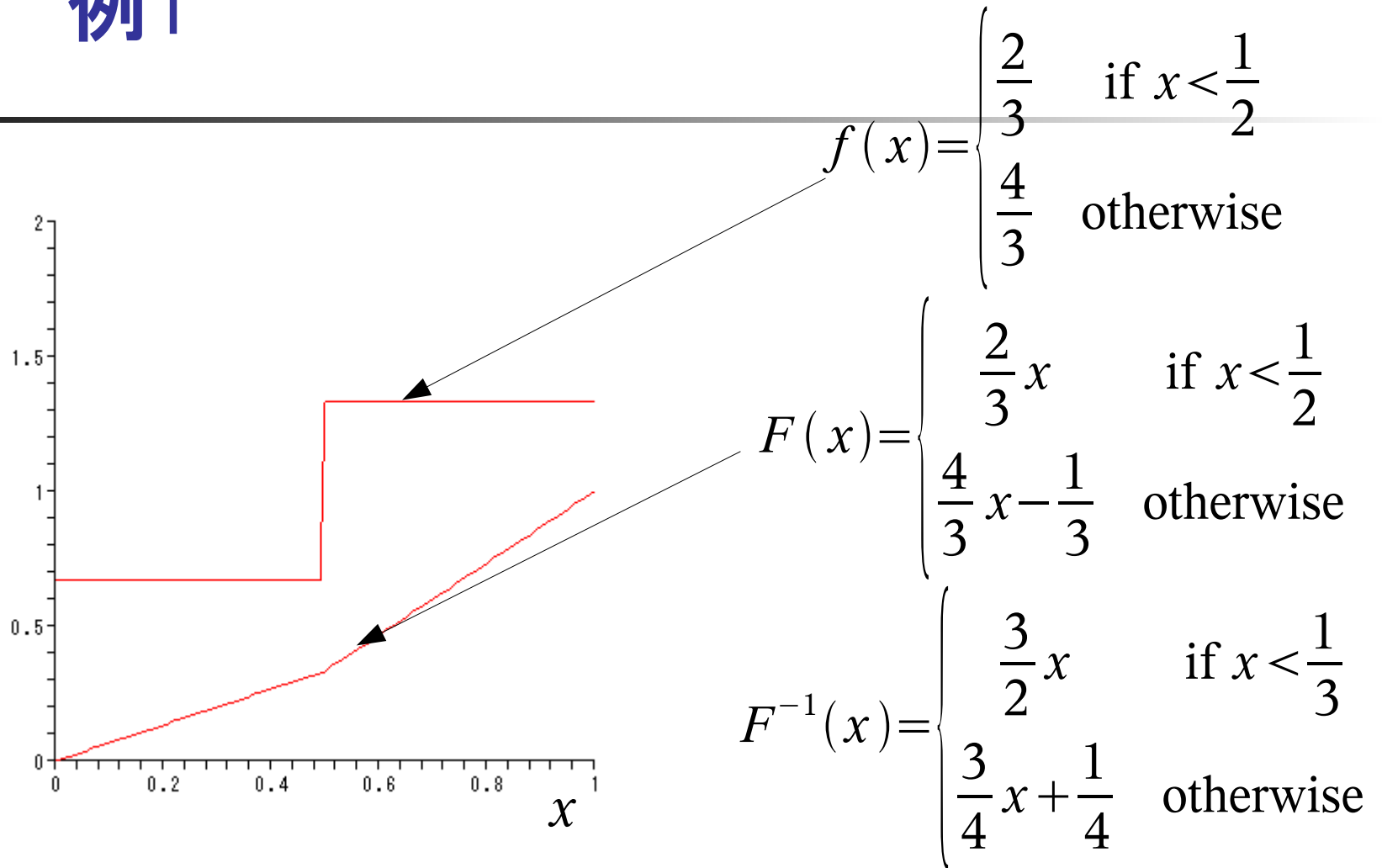
- 範囲  $x_{\min} \leq x < x_{\max}$ ,  $\int_{x_{\min}}^{x_{\max}} f(x) dx = 1$

- 確率分布  $0 \leq F(x) = \int_{x_{\min}}^x f(x') dx' < 1$

- 一様乱数を発生  $0 \leq r < 1$

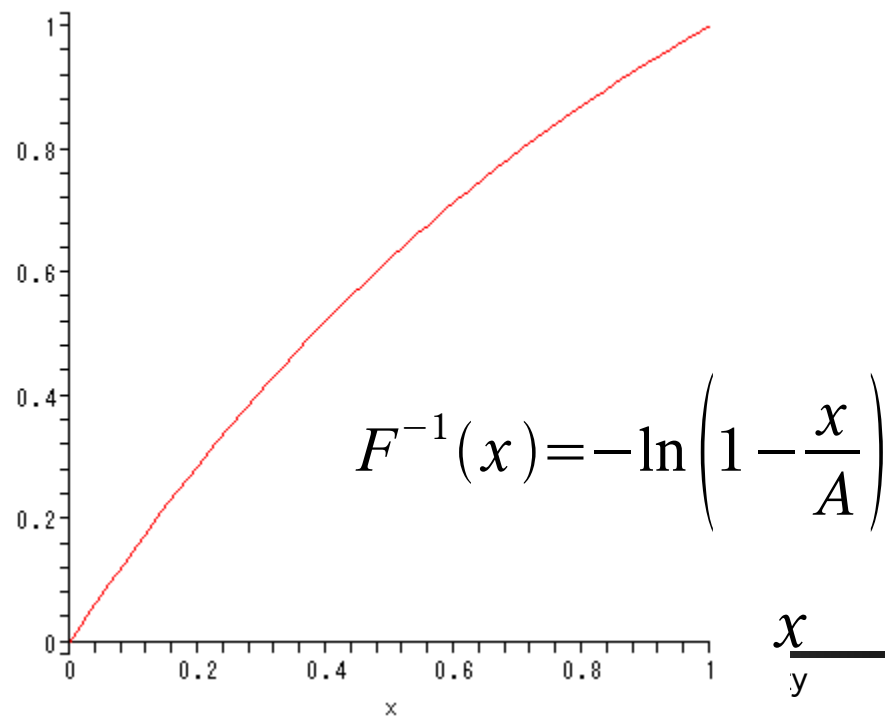
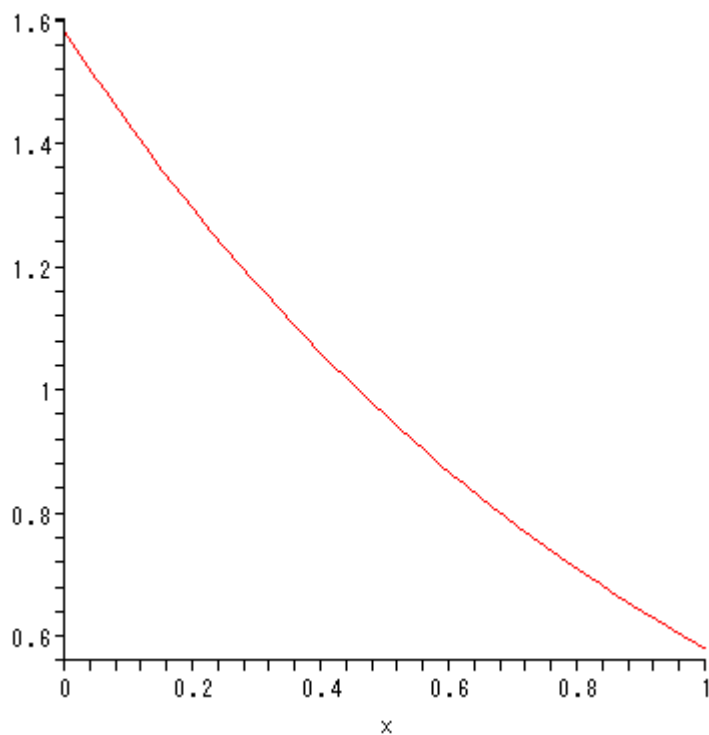
- $x = F^{-1}(r)$  は  $f(x)$  に従う

# 例1



## 例2

$$f(x) = Ae^{-x} \quad 0 \leq x < 1, \quad A = \frac{e}{e-1} \quad F(x) = \int_0^x f(x') dx' = A(1 - e^{-x})$$



# 変換法の困難さ

---

- 逆関数が必要
- 定積分が必要
- 一般の分布関数では不可能

演習問題：確率密度がガンマ関数

$$f(x) = \frac{1}{\pi} \frac{\Gamma}{\Gamma^2 + x^2}$$

の場合に、変換法を構成しなさい。

# 特殊な方法：ガウス分布

---

- ガウス(正規)分布に従う乱数は、通常の変換法では生成できない

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \exp\left(-\frac{x^2}{2\sigma^2}\right)$$

- 定積分の表式が得られない
- 2次元のガウス分布を考える

$$f(x, y) dx dy = \frac{1}{2\pi\sigma^2} \exp\left(-\frac{x^2 + y^2}{2\sigma^2}\right) dx dy$$

---

- 極座標に変換

$$f(r, \theta) dr d\theta = \frac{1}{2\pi \sigma^2} r \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) dr d\theta$$

- $\theta$  方向の積分を実行

- $\theta$  方向は一様分布になることに注意

$$f(r) dr = \frac{1}{\sigma^2} r \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right) dr$$



---

$$\rho = \int_0^r \frac{1}{\sigma^2} r' \exp\left(-\frac{r'^2}{2\sigma^2}\right) dr' = 1 - \exp\left(-\frac{r^2}{2\sigma^2}\right)$$
$$r = \sqrt{-2\sigma^2 \log(1-\rho)}$$

---

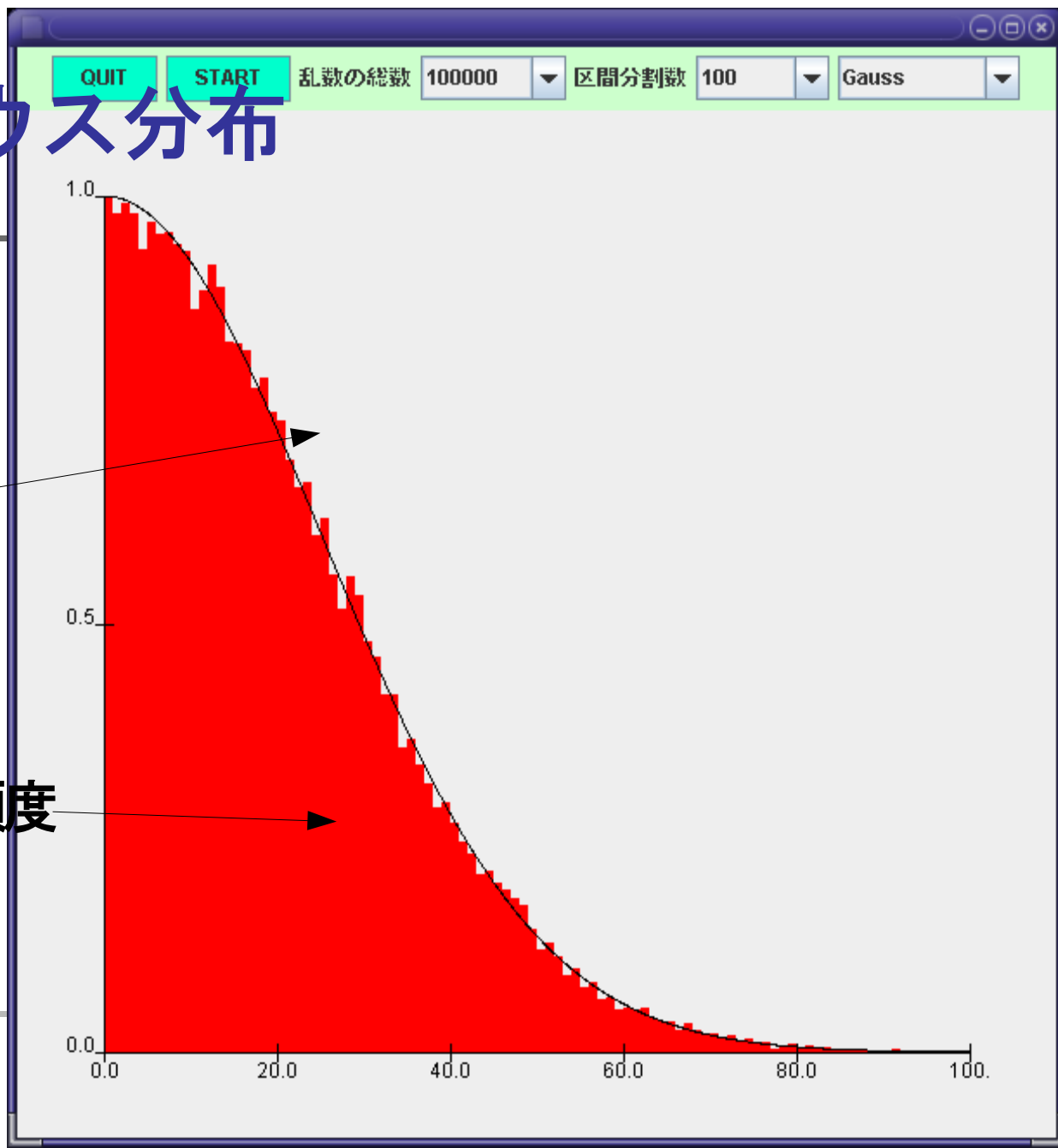
- 二つの一様乱数 $(a, b)$ を発生させる

$$\begin{aligned}(a, b) &\rightarrow \left( r = \sqrt{-2\sigma^2 \log(1-a)}, \theta = 2\pi b \right) \\ &\rightarrow (r \cos \theta, r \sin \theta) = (x, y)\end{aligned}$$

# 実験：ガウス分布

密度曲線

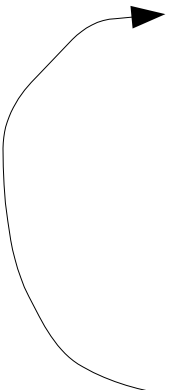
生成した乱数の頻度



# 棄却法

---

- 変換法で生成できない分布の場合
- 確率密度 $f(x)$  に従う、範囲 $[a,b]$ の乱数
- 効率は悪いが、任意の分布に適用できる

- 
1.  $f(x)$  の変域を  $[a,b)$ 、最大値を  $m$  とする
  2.  $[0,1)$  の乱数を生成する  $\{x,y\}$
  3.  $z=(b-a)x+a$
  4.  $y < f(z)/m$  ならば  $z$  を乱数として採用する
  5. それ以外ならば、生成した乱数を棄却する
  6. 繰り返す
- 

---

## 演習問題：確率密度

$$f(x) = \frac{\pi}{2} \sin(\pi x)$$

に従う乱数  $0 \leq x < 1$  を棄却法で生成する関数またはメソッド `randSin()` を定義しなさい。